

～ 起因菌の分類と検査 ～

1 スタッフとのミーティング……

犬の膿皮症のMRSは、前回説明したように増加しているんだ。



起因菌の *Staphylococcus intermedius* Group は、どのような内容ですか？

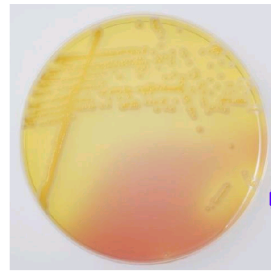
Staphylococcus intermedius は、遺伝学的に
 ・*S.intermedius* ・*S.delfini*
 ・*S.pseudintermedius* の3菌種に分類されたんだ。しかし、生化学的性状が同一のため従来の細菌学的検査では同定が困難なためGroupと一般的に表現されるようになったんだ



2

では、どのような菌の検査をしたら良いのでしょうか

イヌの膿皮症の起因菌には、*S.intermedius* Group の他に *S. schleiferi* も起因菌の一つとして考えられているんだ



これが、検査で見つかった菌の写真だよ



3 数日後…、検査の案内が届く

犬膿皮症を目的としたセット検査ができたようです

検査材料	膿、皮膚（シードスワブ、冷蔵）
目的菌	<i>Staphylococcus intermedius</i> Group <i>Staphylococcus schleiferi</i>
感受性薬剤	セファレキシム(CEX) セフォキシナトリウム(CFV) クラバン酸アモキシシリン(CVA-AMPC) エリスロマイシン(EM) クリンダマイシン(GLDM) スルファトキサゾールトリメプリーム(ST) ミノサイクリン(MINO) ホスホマイシン(FOM) クロラムフェニコール(CP) オフロキサシン(OFLX) オルビフロキサシン(OBFX) エンロフロキサシン(ERFX)
判定基準	抗菌薬感受性検査のための標準法(CLSI M100-S23)
所要日数	3～5日
価格	3,800円
ご依頼方法	右下ドクターコメント欄に「犬膿皮症セットMV1」とご記入下さい。 薬剤の追加はできません。

これは、起因菌が絞られ治療薬剤の選択も分かりやすい内容のセットだ。



4

これで治療方針も 明確になりますね

抗菌薬による治療は、第一選択として、経口抗菌薬のセファレキシムやクラバン酸アモキシシリンが良く使われる。また、内服が不可能な症例に対しては、セフォキシナトリウムを投与したりするんだ。



早速、このセット検査を依頼してみます。



検査監修：犬と猫の皮膚科 村山 信雄先生

～犬膿皮セット検査の特徴～

犬膿皮症に関する検査項目を新規受託開始いたします。

- ★ 犬膿皮症の起因菌のみを検索する細菌検査です。
- ★ 薬剤感受性検査では、第一選択薬として使用されるセフォキシナトリウム(CFV)にも対応いたします。